

夏の一夜を蛍と共につ

蛍が幻想的な光を放つ6月上旬から中旬にかけて、市内各地で「ほたるまつり」が開かれました。

山東町観光協会などが主催する「第16回ほたるまつり」は6月9日、山東庁舎前駐車場で開かれました。協賛団体によるバザーのほか、「緑風満点カード大抽選会」、「たまごのつかみ取り大会」、「歌謡ショー」などたくさんイベントでにぎわいました。イベント終了後、参加者は各々磯部川などで蛍を鑑賞していました。



ベンチに座ってゆっくり鑑賞（石田ほたる祭り）

石田地区では6月16日、「第9



乱舞する蛍（和田山町内）

回石田区ほたる祭り」が開かれ、京阪神からも大型バスで観光客が蛍の鑑賞に訪れるなど、多くの人でにぎわいました。

蛍の鑑賞用に用水路のそばに置かれたベンチに座ってゆっくり鑑賞する人、蛍が光っているところに移動しながら鑑賞する人などそれぞれに蛍の鑑賞を楽しんでいます。

6月17日、さのうコミニティセンターで行われた「さのうホタル祭り」では、「桜もち」や「柿の葉ずし」など地元特産品の販売や「ビンゴ大会」などで周辺に飛び交う蛍を楽しみに来た人たちがもてなされました。

芸術の森を桜で満開に

6月24日、たたらぎ芸術の森美術館前で、桜の苗木の植樹が行われました。

これは6月の環境月間にちなみ、関西電力と美術館が共同で桜のオーナーを募集したものです。当日はあいにくの雨となりましたが、集まった30組の参加者はそれぞれスコップを手に1本ずついいねいに苗木を植えた後、参加者それぞれの記念プレートを取り付けました。

参加者の一人、品川信之さん（新井二区）は「今日植えた桜の木が強たくたくましく育ち、数年後の春に満開になったら、美術館が華やかで素晴らしいになればいいなと思います。その時には、家族で花見に来たいです。」と話していました。



美術館前の法面に桜の苗木を植樹した品川さん親子

思い出っばい 市民号の旅

6月24、25日の2日にわたり、第2回朝来市民号「霧ヶ峰高原と蓼科温泉の旅」が実施されました。

約3百70人の参加者は、車中で親睦を深めたほか、諏訪神社上社や霧ヶ峰高原といった観光名所をめぐりました。



諏訪上社に参拝

霧ヶ峰高原で記念撮影

